|  |  |
| --- | --- |
| **ゼミ名** | 実積寿也ゼミ |
| **学年** | 4年 |
| **メンバー** | 鈴木美帆 |
| **研究テーマ** | 一般利用型CBDCは民間決済サービスの橋渡し役となりうるか　～Suicaの事例をもとに～ |
| **要約文** | 近年、情報通信技術の進歩によって様々な分野のデジタル化が進んでいる。特に決済分野においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もありデジタル化が進展している。このような状況の中で、中央銀行デジタル通貨(CBDC: Central Bank Digital Currency)を発行すべきかどうかという検討課題が生じてきた。CBDCに期待される役割には、民間決済サービスのサポートが含まれる。これは、民間決済システム間の相互運用性を向上させる、異なる決済システム同士を繋げる橋渡しとしての役割である。これにより、決済の効率性が改善されるのであれば、ネットワーク効果による価値が生まれ、民間決済システムの利用人数も増えると予想される。この問題意識を検証するため、本稿では、過去に相互運用をしたことのあるJR東日本が発行する交通系ICカードのSuicaを例として挙げ、相互運用をした後の方が利用者が増えたかどうかを検証する。Suicaの全国相互利用により鉄道を利用する外国人観光客が増えたとわかれば、CBDCの導入により民間決済サービスの利用人数が増えるということができるからである。分析の結果、都道府県内すべての駅でSuicaが使える場合は外国人観光客の鉄道利用数が増加していることが分かった。このことから、民間決済サービス間の橋渡し役をCBDCが担うとすると、民間決済サービスの利用人数が増加すると考えられる。一般利用型CBDC を発行することで、決済システム全体の安定性・効率性を高めることができる。 |